

相談

してくださーい！

アルコール依存症

アルコール依存症とは

大量のお酒を長期にわたって飲み続けることで、自らの意志で飲酒をコントロールできなくなり、飲酒を繰り返す病気です。飲まないと不安感や焦燥感が起こるなど、離脱症状がみられるのも特徴です。

アルコール依存症になると、家族や仕事などより飲酒をはるかに優先させてしまうようになり、本人や家族の生活に大きな支障が出てきます。

お酒を飲む人であれば、誰でも依存症になる可能性があります。

ぜひ下記のチェックを試してみてください。

飲み方をチェックしてみましょう

- 飲酒量を減らさなければならぬと感じたことがある
- 他人があなたの飲酒を非難することで、気に障ったことがある
- 自分の飲酒について、「悪い」「申し訳ない」と感じたことがある
- 神経を落ち着かせたり、二日酔いを治したりするために「迎え酒」をしたことがある

上記4項目のうち、該当するものが一つの場合は「節酒が必要」、二つ以上の方は「アルコール依存症の疑い」があります。

家族・周りの人たちに

アルコール依存症は、回復する病気です。しかし、自分から治療を求めることが少ない病気でもあります。本人が病気であることに気が付きにくいからです。

この病気から回復するためには、専門の医療機関を受診し、適切な治療を受ける必要があります。家族や周りの人が飲酒の問題に気が付き、相談することが回復への第一歩です。まずは、四日市市保健所やかかりつけの医療機関にご相談ください。

まずはご相談ください

四日市市保健所(保健予防課)

☎352-0596

FAX 351-3304

専門医に聞きました

かすみがうらクリニック
いのあろ
猪野 亜朗 先生



Q アルコール依存症になると、どんな症状が出るのですか？

A 長期間、多量の飲酒を続けると、神経細胞が壊れ、脳が萎縮することがあります。これにより、アルコールが切れるとイライラや不安、不眠、発汗、手指の震え、吐き気、頻脈などのどれかが生じてきます。こうした不快な状態を脱しようと、さらに飲酒してしまうようになります。

Q 治療するにはどうすればよいですか？

A 本人の意思を尊重しながら、「断酒」ができるようになることを目指します。そのためには、専門の医療機関を受診することの他、本人や家族・周りの人が正しい知識を持つこと、断酒会などの自助グループに参加することも有効です。

猪野先生によるアルコール関連問題の相談

日時:11月15日(水) 10:00~12:00、13:00~16:00

場所:総合会館7階 相談室

※11月8日までに予約が必要です。保健予防課までご連絡ください

11月10日~16日は
「アルコール関連問題
啓発週間」です